

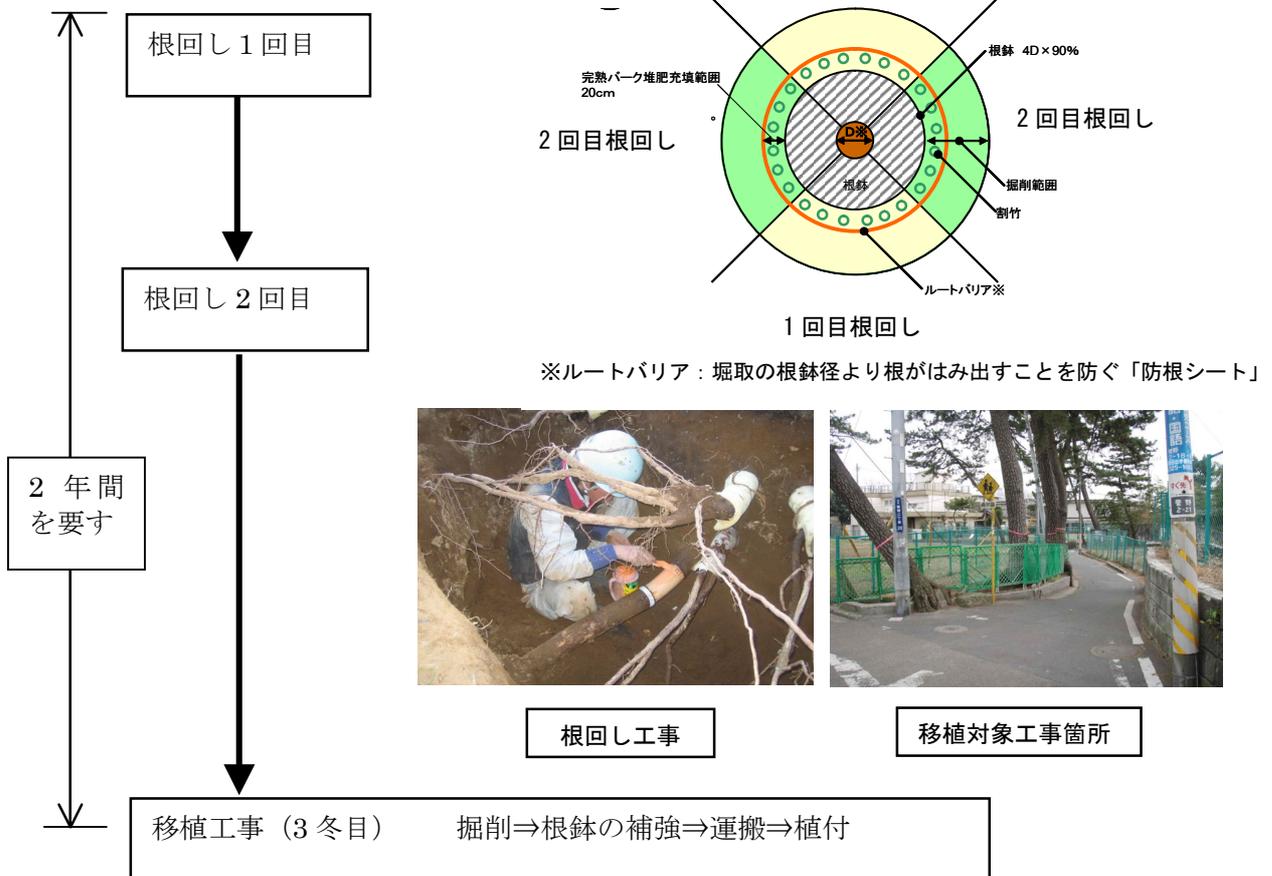
②移植工事

●根回し作業の着手

平成15～18年度に実施した移植施工検討及び移植試験施工の結果を踏まえた移植施工指針案に基づき、平成19年度クロマツ移植工事を発注し、「移植可能木」の移植工事に向け順次根回しに着手した。

クロマツの多くは、旧宅地内の狭小部に多く生育し、また生活道路に近接しているものが多く、本格工事着工前の現状での根回し作業は、道路規制・切回しが生じることや架線・埋設管等のライフラインが支障となり困難な作業である。

移植までの流れ



●移植工事

根鉢補強と立植えのままの運搬のため、鋼製材を使用するなど、試験移植の結果をもとに、最適工法により行っていく。



根鉢の補強

※写真は試験移植時



運搬状況

2) 保全地の選定

クロマツの保全については、極力従来の景観を残していくことが大切であるが、下記条件も踏まえて、保全地の選定が必要である。

- ① 地元で親しまれている木であることから、極力現生育地近く移植。
- ② 大径木はその樹形を保持したまま移動

⇒立植の状態でも移動させるため、主要道・鉄道架線を越えることが不可能。

このため、北部（京成本線以北）・中部（京成～国道14号）・南部（国道14号～総武線）それぞれのブロック内での配植に限定される。

限られた道路用地内、限定された移植範囲の中で移植対象木を配植していくと、存置や移植先の近隣住民には、日照・枯落葉の影響をご理解いただく必要も生じる。さらに、平田緑地復元計画など地元の意向を反映させていく必要もあり、地元行政と協議して対応していく。

【クロマツの仮移植】

- ・平成22年3月現在、クロマツ保全の目的で、外環本線の工事に支障とならない場所へ、クロマツ12本の仮移植を行った。今後、仮移植したクロマツの適切な管理を行っていく。

3) 新たな芽吹きのお手伝い

～実生苗の育成と植樹～

できるかぎり、現状での保護や移植を行っても数十本以上のクロマツは保全することができない。また、老齢木は今後枯損していくことが考えられる。

このため、生息地で採取した種子により実生苗の生育を地元の協力のもとおこなっており、やむを得ず失われたクロマツの補完と将来への「市川のクロマツ」の子孫継承のため、事業用地内に植樹をおこなっていく。

【クロマツの引継ぎイベント】

- ・平成21年4月28日、近くの日出学園小学校の子どもたちに、平成16年から平田緑地で採取された種を鉢に植えてスタートし、平成21年までの5年間育てていただいた苗木約130本を、日出学園から外環事業者へ引き継ぐとともに、子どもたちの手で外環事業用地内に仮移植していただいた。



育成中の苗